

2025年度の生乳及び牛乳乳製品の 需給見通しと課題について

2025年9月30日



一般社団法人 Jミルク
Japan Dairy Association (J-milk)

本見通しの趣旨

本見通しは、ARIMA モデル（短期予測モデル）から得られた推計値ならびに関係者からのヒアリング等に基づき算出したものであり、酪農乳業界としての需給に係る課題を抽出し、その課題対応の取り組みや検討の協議に資することを目的としている。ARIMA モデルでは、過去 30 年の累積データから長期的なトレンドと直近のトレンドを組み合わせて試算している。

※業界としての今後の需要拡大に係る取り組み等、現時点で推計したり、成果を見通したりすることが困難な要素については加味していない。

本見通しの前提

1. 生乳生産予測（P 3～4 の説明）

- （1）北海道及び都府県の予測値は、2025 年 7 月までの生乳生産量データに基づき、累積気温や乳牛頭数（搾乳牛頭数・妊娠頭数）等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。なお、2025 年度の夏場の気温は、「猛暑」設定をベースに直近の気温の傾向などを反映して試算。
- （2）要因変数として採用している搾乳牛頭数は、家畜改良センターの月齢別乳用雌牛頭数（速報値）を基に、季節当月ごとの月齢推移確率（X ヶ月齢の乳用牛について、前月の X-1 ヶ月齢からの平均残存率）を求めて推計。妊娠頭数は、授精頭数及び累積気温等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルにより推計（AR による推計）。

2. 月齢別乳用雌牛頭数の推移と出生頭数（P 5～6 の説明）

家畜改良センターの月齢別乳用雌牛頭数（速報値）を基に、季節月ごとの月齢推移確率（X ヶ月齢の乳用牛について前月の X-1 ヶ月齢からの平均残存率）を求め推計。出生頭数（実績）は家畜改良センターの乳用雌牛頭数（速報値）をまとめた。

3. 牛乳等生産量予測（P 7～9 の説明）

各々の予測値は、2025 年 7 月までの生産量データに基づき、人口、価格、累積気温、平日日数等の要因変数、ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。さらに、直近の小売 P O S データで確認された変化動向等も考慮した。なお、2025 年度の夏場の気温は、「猛暑」で試算した。

4. 用途別処理量予測（P 10～12 の説明）

- （1）生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出。
- （2）自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定。
- （3）飲用等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、最近の生乳使用係数を乗じ算出。

5. 脱脂粉乳・バター需給予測（P 13～14 の説明）

- （1）脱脂粉乳・バターの生産量は、脱脂粉乳・バター等向処理予測数量に、直近の動向等を反映した製造係数（これらの製品単位あたりに実際に使用された生乳数量）を乗じて算出。
- （2）脱脂粉乳・バターの推定出回り量は、2025 年 7 月までの推定出回り量データに基づき、発酵乳の動向等の要因変数を ARIMA モデルに組み込んだ予測モデルによる推計値を基本に算出。

(3) 脱脂粉乳・バター在庫月数は、直近1年間の出回り量実績の1ヶ月平均を基に算出。

6. 都府県生乳需給予測 (P15の説明)

(1) 「移入必要量(道外移出量)」は、都府県不足量の補完と、北海道ブランド牛乳製造のための必要乳量等を基本に算出。

(2) 「脱脂粉乳・バター等向処理量」は、「A-B-C」+「移入量」-「移出量」で算出。過去5年間の最低数量や直近の需給状況並びに北海道における脱脂粉乳・バター等仕向の処理能力を加味して算出。

※生乳取引価格引き上げに伴う牛乳・乳製品価格改定の影響について

本見通しでは、2025年6月からの乳製品向け生乳取引価格引き上げ、2025年8月からの飲用等向け生乳取引価格引き上げに伴う製品価格改定による需要の減少について、牛乳乳製品の価格と需要の相関を企業物価指数と販売記録データ(POSデータ)、牛乳乳製品統計などを用いて検討し、ARIMAモデルで予測した。

企業物価指数の飲料または食料全体に対する各カテゴリの相対価格指数を算出し、製品価格が下表のとおり改定したときの需要量を予測した。

※企業物価指数

日本銀行公表。企業間で取引される財を対象としている。品質を固定した商品(財)の価格を継続的に調査し、現在時点の価格を、基準時点(2020年)の価格を100として指数化したもの。企業間に取り引きされる商品の価格を指数化した物価指数のこと。

※参考 価格改定率

	価格改定率
牛乳	+6%
加工乳	+6%
成分調整牛乳	+6%
乳飲料	+6%
はっ酵乳	+6%
チーズ向	+4%
生クリーム等向	+9%
脱脂粉乳(出回り)	+3%
バター(出回り)	+10%

1. 地域別生乳生産量の動向

表1-1：2024年度の地域別生乳生産量（網掛け：実績）

（千トン）

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4 月	635	101.1%	356	101.9%	280	100.1%
5 月	656	101.0%	371	101.3%	284	100.6%
6 月	616	99.5%	352	98.9%	264	100.3%
7 月	606	98.3%	356	99.1%	251	97.2%
8 月	592	100.3%	352	102.7%	240	97.0%
9 月	579	101.0%	344	103.5%	235	97.6%
10 月	606	101.4%	354	103.4%	252	98.7%
11 月	589	101.8%	341	103.3%	248	99.7%
12 月	616	101.2%	357	103.0%	259	98.8%
1 月	632	101.9%	365	103.9%	267	99.2%
2 月	583	98.2%	337	100.3%	247	95.4%
3 月	661	102.3%	379	104.5%	282	99.6%
第1四半期	1,907	100.5%	1,079	100.7%	828	100.3%
第2四半期	1,778	99.9%	1,052	101.7%	726	97.3%
第3四半期	1,811	101.4%	1,052	103.2%	759	99.1%
第4四半期	1,877	100.9%	1,081	103.0%	796	98.1%
上期	3,685	100.2%	2,131	101.2%	1,554	98.9%
下期	3,688	101.1%	2,133	103.1%	1,555	98.6%
年度計	7,373	100.7%	4,264	102.1%	3,109	98.7%

表1-2：2025年度の地域別生乳生産量（見通し）

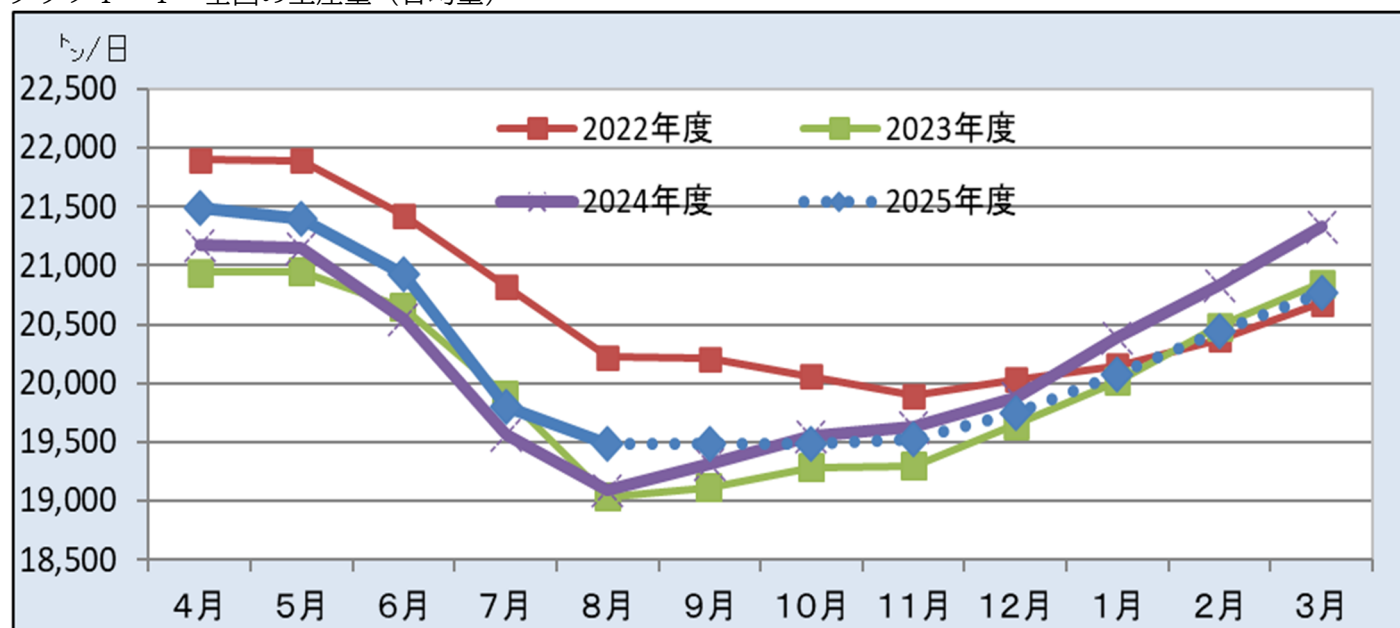
（千トン）

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4 月	645	101.5%	366	102.9%	279	99.7%
5 月	663	101.2%	379	102.2%	284	99.8%
6 月	628	101.9%	366	103.8%	262	99.3%
7 月	614	101.2%	363	102.1%	251	99.9%
8 月	604	102.0%	362	102.8%	242	101.0%
9 月	584	100.9%	348	101.2%	236	100.5%
10 月	604	99.6%	353	99.7%	251	99.5%
11 月	586	99.4%	339	99.5%	246	99.3%
12 月	612	99.4%	355	99.4%	257	99.2%
1 月	622	98.4%	361	98.9%	261	97.8%
2 月	572	98.1%	331	98.4%	241	97.7%
3 月	644	97.4%	370	97.6%	274	97.0%
第1四半期	1,936	101.5%	1,111	103.0%	825	99.6%
第2四半期	1,802	101.4%	1,073	102.0%	729	100.4%
第3四半期	1,802	99.5%	1,047	99.5%	755	99.4%
第4四半期	1,839	98.0%	1,063	98.3%	776	97.5%
上期	3,738	101.5%	2,184	102.5%	1,554	100.0%
下期	3,640	98.7%	2,110	98.9%	1,530	98.4%
年度計	7,379	100.1%	4,294	100.7%	3,085	99.2%

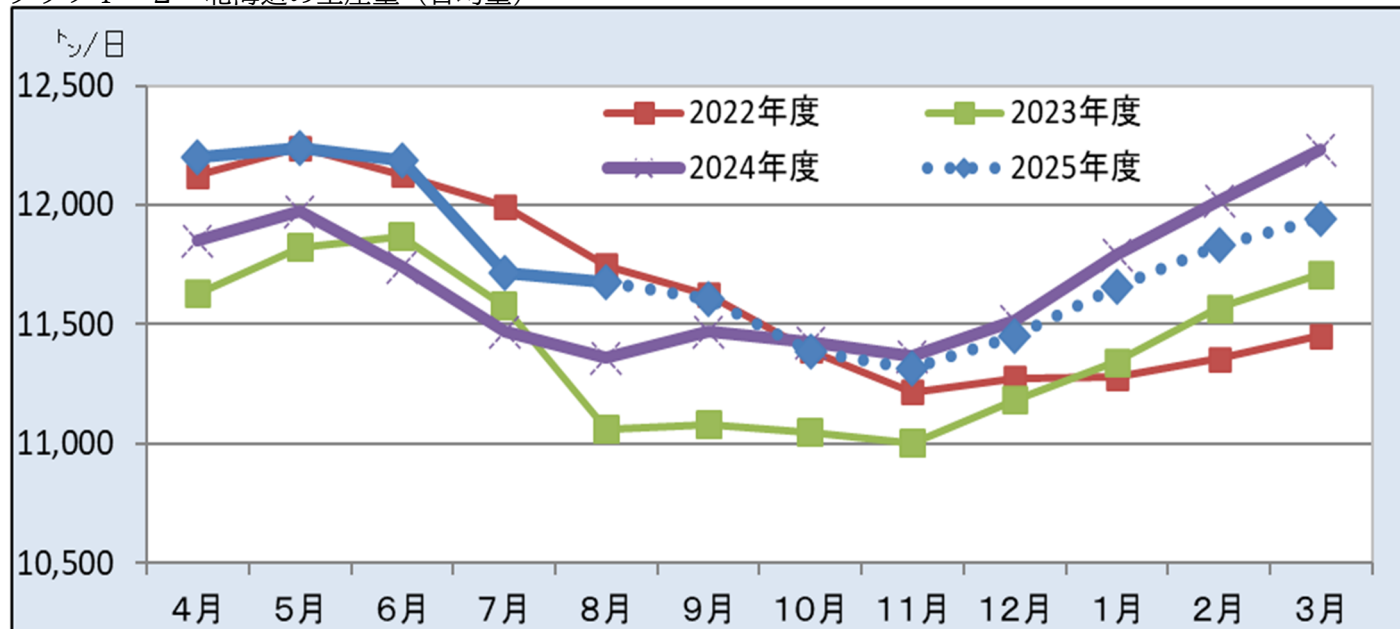
【2025年度生乳生産の見通し】 全国 7,379 千トン・前年比 100.1%、北海道 4,294 千トン・同 100.7%、都府県 3,085 千トン・同 99.2%の見通し。都府県は 4 年連続の減産、北海道は 2 年連続の増産、全国も 2 年連続の増産となる見込み。

【前回見通し(8/1)公表】 全国 7,353 千トン・前年比 99.7%、北海道 4,284 千トン・同 100.5%、都府県 3,068 千トン・同 98.7%。

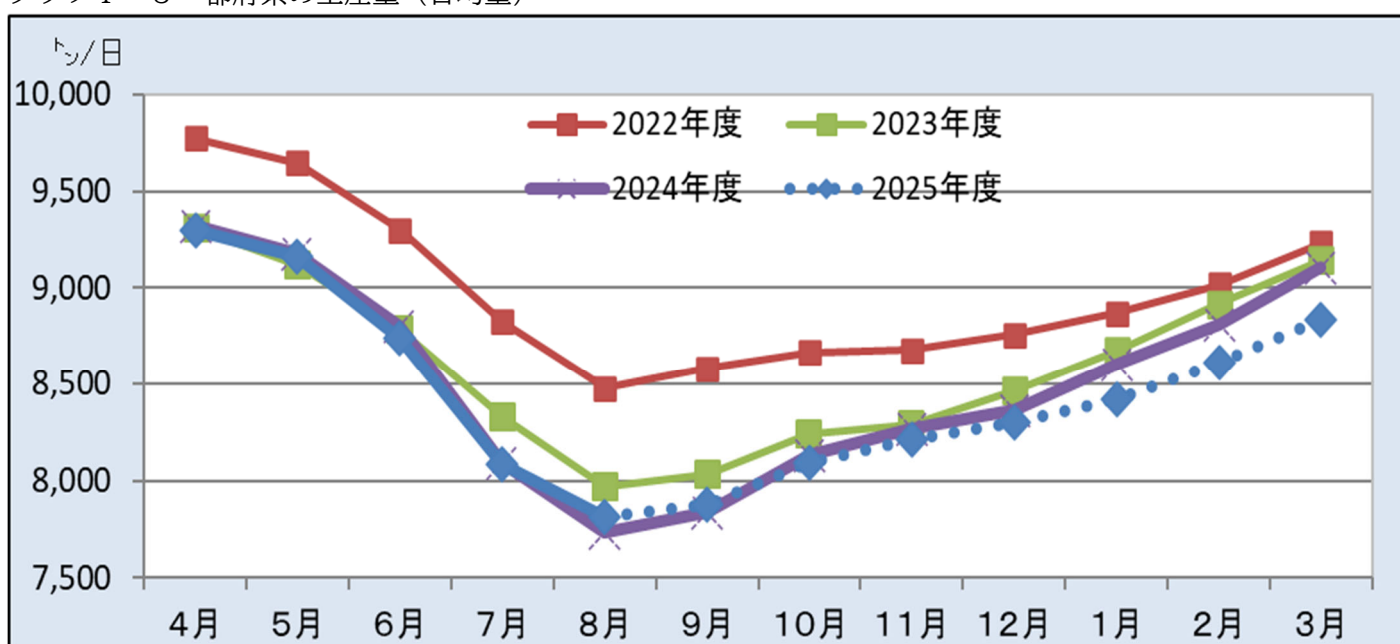
グラフ 1－1：全国の生産量（日均量）



グラフ 1－2：北海道の生産量（日均量）

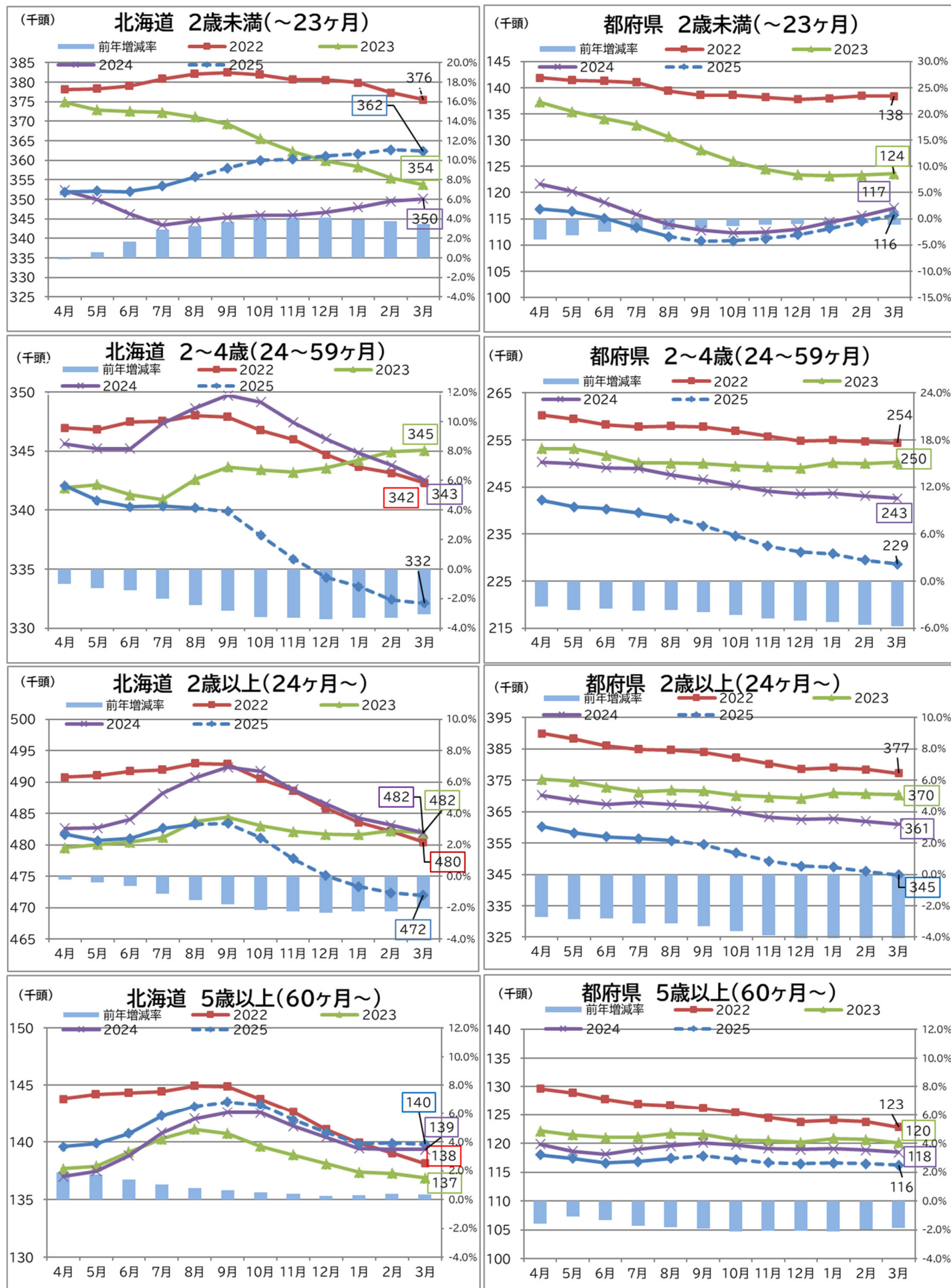


グラフ 1－3：都府県の生産量（日均量）

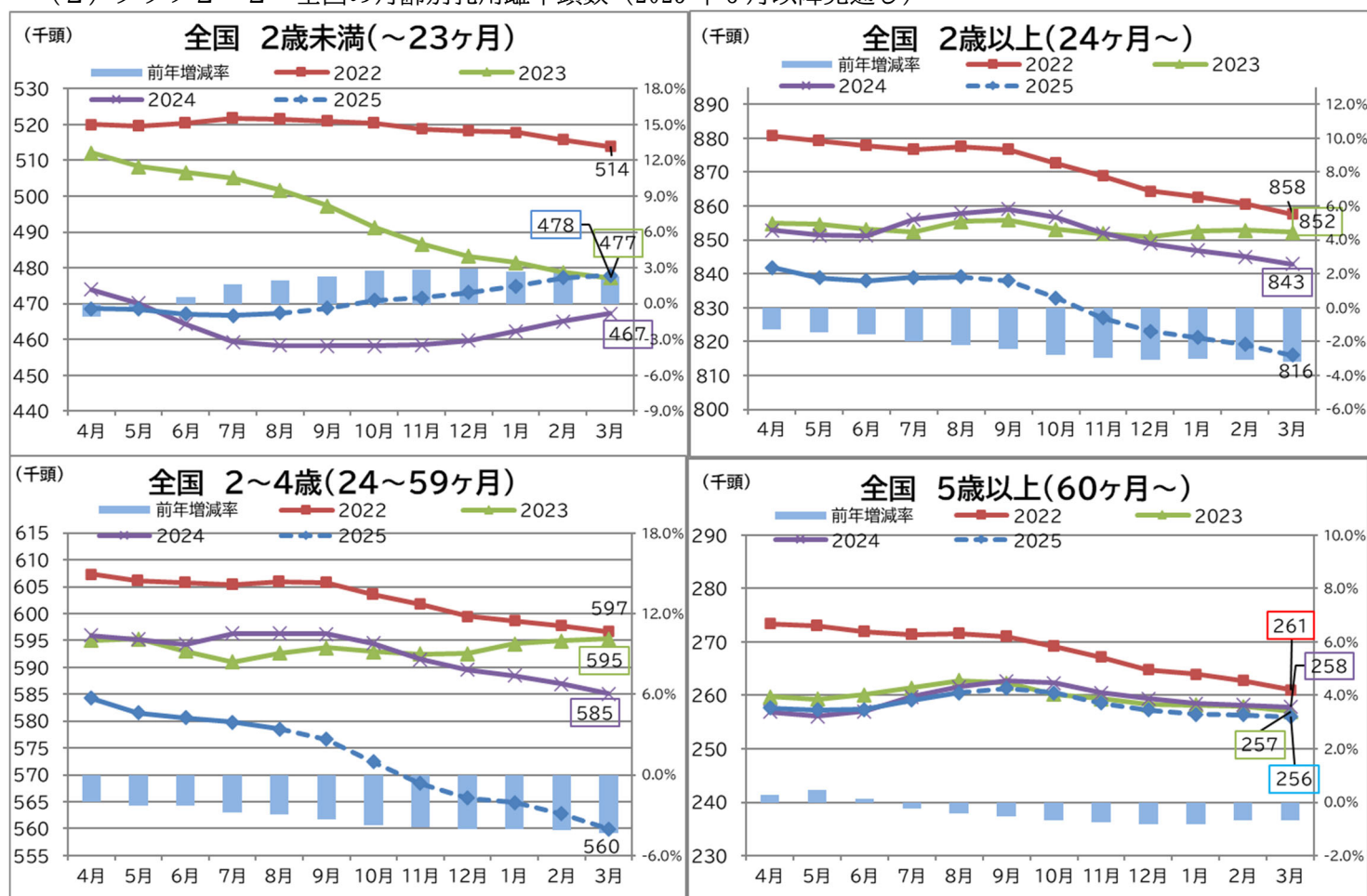


2. 月齢別乳用雌牛頭数の推移と出生頭数

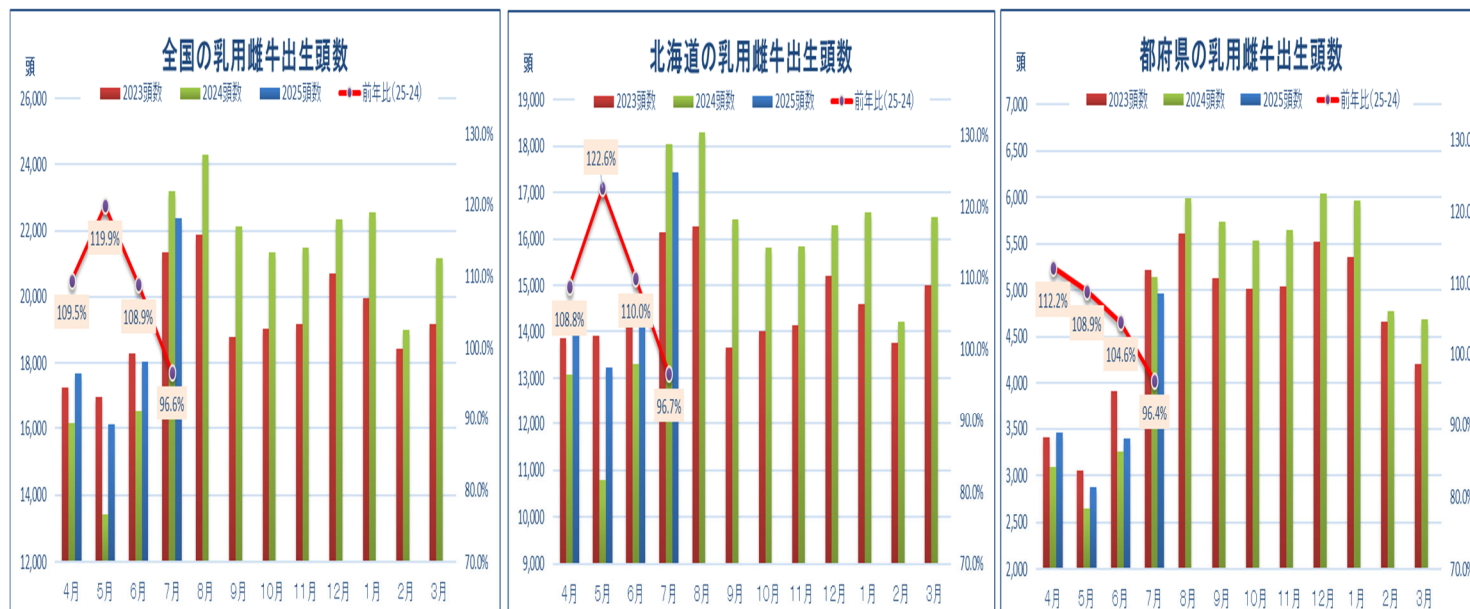
(1) グラフ2-1：北海道と都府県の月齢別乳用雌牛頭数（2025年8月以降見通し）



(2) グラフ2-2：全国の月齢別乳用雌牛頭数（2025年8月以降見通し）



(3) 表2-3：乳用雌牛出生頭数（2025年7月まで実績）



【2025年度の乳用雌牛頭数について】

- ・2歳未満頭数(3月末時点)は、北海道で約12千頭増加する一方、都府県で約1千頭減少する見通し。搾乳牛となる2歳以上頭数(3月末時点)は、北海道で約10千頭、都府県で約16千頭減少する見通し。北海道では、主力となる2～4歳頭数が10月以降大きく減少する見通し。
- ・2025年度の乳用雌牛出生頭数実績(4-7月累計)は、北海道は前年比107.8%、都府県は同104.1%、全国では107.1%といずれも前年を上回って推移している。

3. 牛乳等生産量の動向

表3-1：2024年度の牛乳等生産量（網掛け：実績）

（千kl）

	牛乳類		牛乳		学乳		学乳以外		うち、業務用		うち、業務用以外		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
4月	363	98.0%	250	98.7%	26	99.0%	224	98.6%	22	97.6%	201	98.8%	12	102.5%	18	91.8%	83	96.9%	87	104.8%
5月	383	97.5%	264	98.2%	35	100.4%	229	97.9%	21	96.1%	208	98.1%	12	104.7%	19	90.5%	88	96.1%	90	104.9%
6月	380	98.1%	265	99.9%	36	97.1%	229	100.3%	20	104.8%	209	99.9%	10	97.2%	18	90.9%	86	94.7%	86	99.8%
7月	383	96.6%	261	97.9%	23	101.1%	238	97.6%	21	100.8%	217	97.3%	11	103.9%	19	88.2%	92	94.0%	90	103.5%
8月	372	96.4%	248	99.7%	5	83.1%	243	100.2%	22	100.0%	221	100.2%	12	101.8%	19	89.9%	93	89.2%	88	104.9%
9月	390	98.0%	270	99.9%	33	96.1%	236	100.5%	23	104.1%	213	100.1%	12	99.9%	18	88.3%	91	94.6%	86	101.3%
10月	398	99.8%	274	100.9%	37	101.7%	238	100.8%	25	100.7%	212	100.8%	13	98.8%	18	93.4%	92	98.1%	89	106.6%
11月	368	99.4%	258	101.2%	34	100.4%	224	101.3%	25	101.2%	198	101.3%	14	103.5%	17	93.1%	80	94.7%	85	109.0%
12月	354	99.0%	247	100.3%	28	104.0%	220	99.9%	25	96.4%	195	100.3%	14	99.8%	17	92.5%	76	96.0%	82	109.5%
1月	357	99.3%	250	100.4%	30	99.2%	221	100.6%	21	99.2%	200	100.7%	13	106.8%	17	95.1%	77	95.8%	88	112.5%
2月	333	96.0%	237	97.9%	32	95.5%	205	98.3%	21	97.1%	184	98.5%	12	100.4%	16	90.8%	68	90.3%	80	103.4%
3月	355	99.4%	247	100.9%	21	102.4%	225	100.8%	23	100.4%	202	100.8%	12	94.9%	17	94.4%	79	96.5%	88	103.7%
第1四半期	1,126	97.9%	779	98.9%	98	98.8%	682	98.9%	64	99.2%	618	98.9%	35	101.6%	55	91.1%	257	95.9%	263	103.1%
第2四半期	1,145	97.0%	779	99.2%	61	96.6%	718	99.4%	67	101.7%	651	99.2%	34	101.8%	56	88.8%	276	92.5%	264	103.2%
第3四半期	1,120	99.4%	779	100.8%	98	101.9%	681	100.7%	75	99.4%	605	100.8%	41	100.7%	52	93.0%	248	96.3%	256	108.3%
第4四半期	1,045	98.3%	734	99.8%	83	98.5%	652	99.9%	66	98.9%	586	100.0%	37	100.6%	50	93.5%	224	94.3%	256	106.5%
上期	2,272	97.4%	1,558	99.1%	159	97.9%	1,399	99.2%	131	100.5%	1,269	99.0%	69	101.7%	111	89.9%	533	94.1%	527	103.2%
下期	2,165	98.8%	1,513	100.3%	181	100.3%	1,332	100.3%	141	99.2%	1,191	100.4%	78	100.6%	102	93.2%	472	95.3%	513	107.4%
年度計	4,437	98.1%	3,072	99.7%	340	99.2%	2,732	99.7%	272	99.8%	2,460	99.7%	148	101.1%	213	91.5%	1,005	94.7%	1,040	105.2%

表3-2：2025年度の牛乳等生産量（見通し）

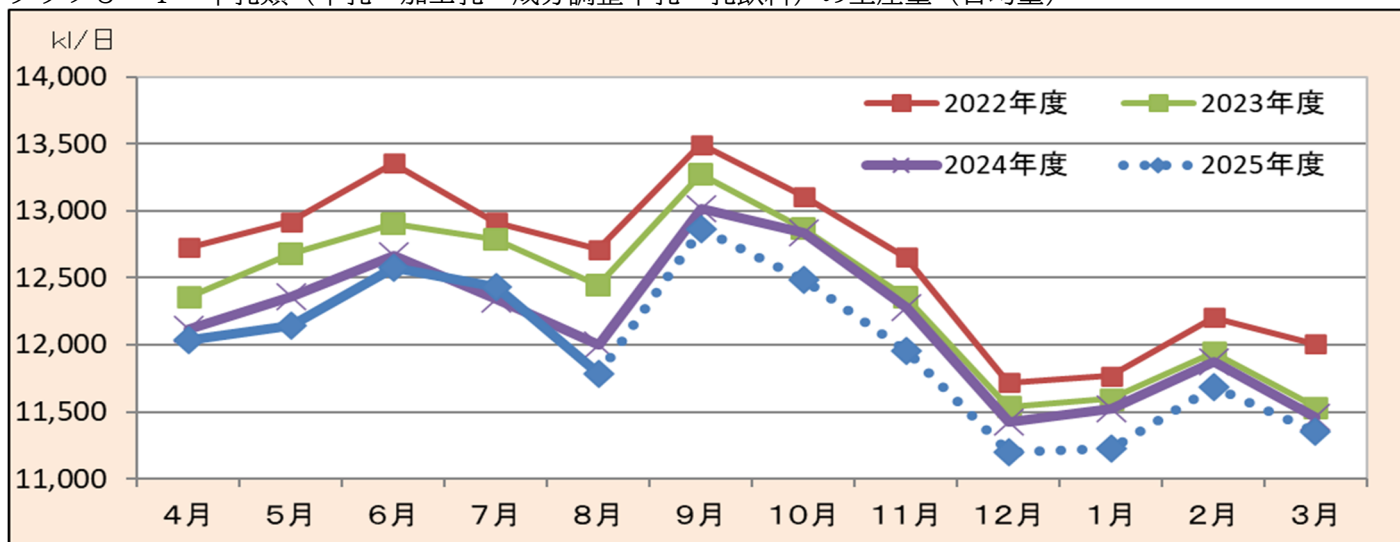
（千kl）

	牛乳類		牛乳		学乳		学乳以外		うち、業務用		うち、業務用以外		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
4月	361	99.3%	250	100.1%	27	101.0%	223	100.0%	23	102.5%	201	99.7%	11	93.9%	17	93.8%	83	99.0%	88	100.5%
5月	376	98.2%	263	99.4%	34	96.4%	229	99.8%	21	99.9%	207	99.8%	11	92.8%	17	93.3%	85	96.6%	90	99.7%
6月	377	99.3%	264	99.7%	37	101.5%	228	99.5%	20	96.8%	208	99.7%	11	104.2%	17	93.5%	85	98.6%	89	103.9%
7月	385	100.7%	263	100.9%	23	100.1%	241	101.0%	20	94.1%	221	101.6%	11	103.4%	18	94.6%	93	101.1%	91	101.8%
8月	365	98.2%	245	98.9%	5	102.0%	240	98.8%	21	94.7%	219	99.2%	11	98.1%	18	91.4%	91	97.7%	86	97.3%
9月	386	98.8%	268	99.2%	34	101.9%	234	98.9%	23	98.0%	211	98.9%	12	98.2%	16	89.8%	90	99.5%	86	100.7%
10月	387	97.3%	270	98.5%	36	99.3%	234	98.4%	25	98.0%	209	98.4%	12	93.7%	16	85.9%	89	96.5%	88	99.6%
11月	359	97.3%	253	98.1%	32	94.3%	221	98.7%	25	97.7%	196	98.8%	12	89.1%	14	83.8%	79	99.0%	84	98.0%
12月	347	98.1%	245	99.1%	28	100.7%	217	98.9%	24	98.8%	193	99.0%	13	90.0%	14	83.3%	76	99.4%	80	97.7%
1月	348	97.4%	247	98.5%	29	98.6%	218	98.5%	21	98.4%	197	98.6%	12	89.8%	14	83.9%	75	98.2%	84	95.6%
2月	327	98.4%	234	98.9%	32	99.6%	203	98.8%	20	95.2%	182	99.2%	11	91.7%	14	87.3%	68	100.2%	80	100.6%
3月	352	99.0%	246	99.6%	22	102.4%	224	99.4%	23	100.1%	201	99.3%	12	95.4%	15	87.2%	79	100.2%	89	101.3%
第1四半期	1,115	98.9%	777	99.7%	97	99.5%	680	99.8%	64	99.8%	616	99.7%	34	96.6%	51	93.5%	252	98.1%	267	101.3%
第2四半期	1,137	99.3%	776	99.7%	62	101.2%	715	99.5%	64	95.7%	651	99.9%	34	99.8%	52	92.0%	274	99.5%	264	99.9%
第3四半期	1,093	97.5%	768	98.6%	96	98.0%	672	98.7%	74	98.2%	598	98.7%	37	90.9%	44	84.4%	244	98.2%	252	98.4%
第4四半期	1,027	98.3%	727	99.0%	83	100.0%	644	98.9%	64	97.9%	580	99.0%	34	92.3%	43	86.1%	223	99.5%	254	99.1%
上期	2,251	99.1%	1,554	99.7%	159	100.2%	1,395	99.6%	128	97.7%	1,267	99.8%	68	98.2%	103	92.7%	526	98.8%	531	100.6%
下期	2,120	97.9%	1,495	98.8%	179	98.9%	1,316	98.8%	138	98.1%	1,178	98.9%	72	91.5%	87	85.2%	467	98.8%	506	98.8%
年度計	4,371	98.5%	3,049	99.3%	338	99.5%	2,710	99.2%	266	97.9%	2,444	99.4%	140	94.7%	190	89.2%	993	98.8%	1,037	99.7%

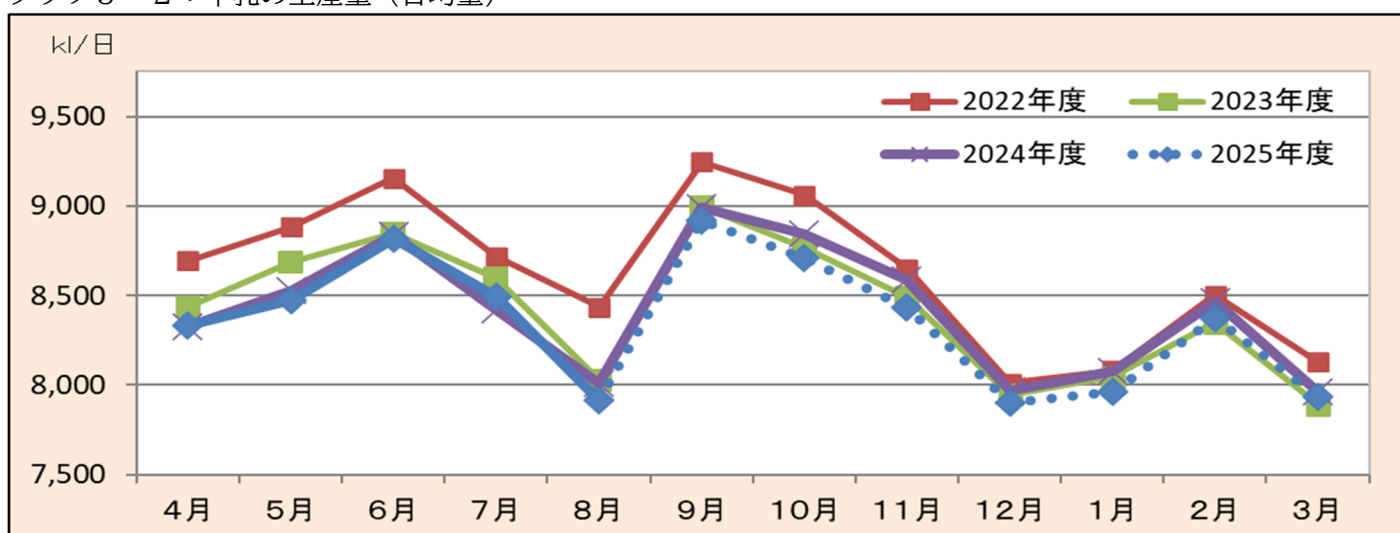
【2025年度の牛乳等生産量の見通し】 牛乳類は4,371千kl・前年比98.5%。内訳として、牛乳3,049千kl・同99.3%、加工乳140千kl・同94.7%、成分調整牛乳190千kl・同89.2%、乳飲料993千kl・同98.8%。はっ酵乳1,037千kl・同99.7%の見通し。

【前回見通し(8/1)公表】 牛乳類は4,357千kl・前年比98.2%。内訳として、牛乳3,040千kl・同99.0%、加工乳139千kl・同94.3%、成分調整牛乳195千kl・同91.6%、乳飲料983千kl・同97.8%。はっ酵乳1,038千kl・同99.8%。

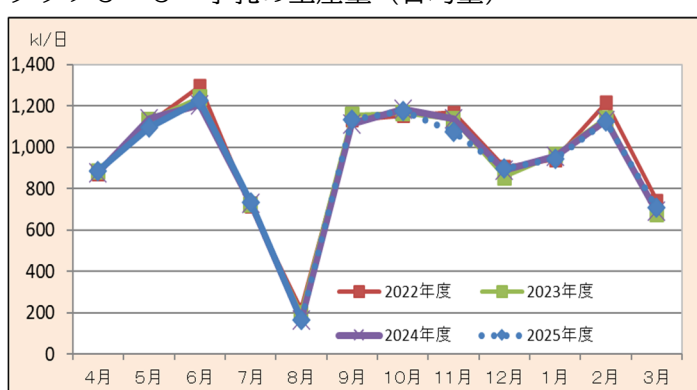
グラフ 3－1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



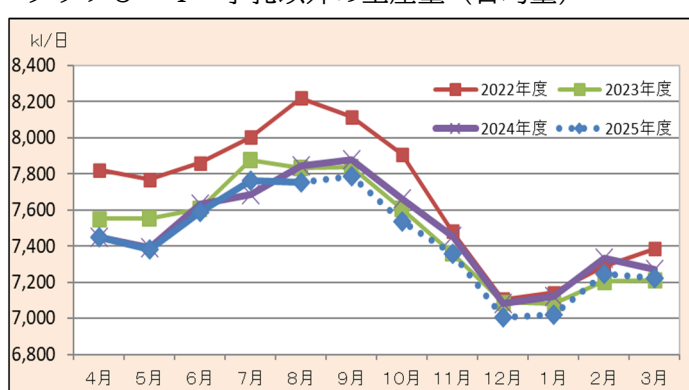
グラフ 3－2：牛乳の生産量（日均量）



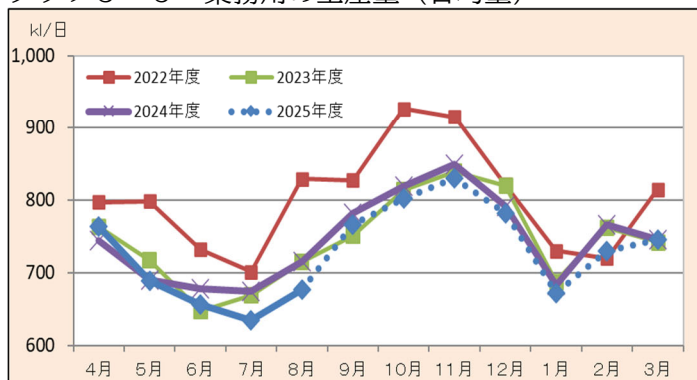
グラフ 3－3：学乳の生産量（日均量）



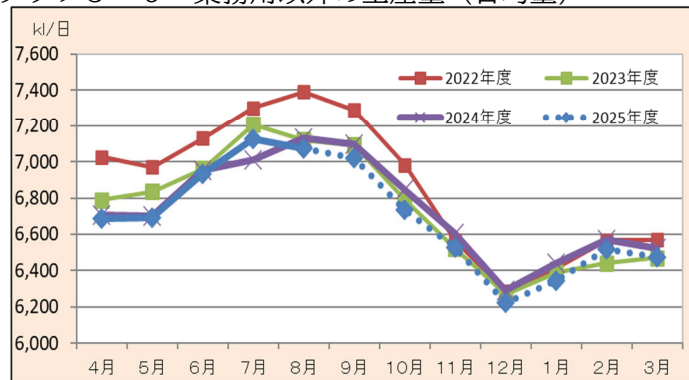
グラフ 3－4：学乳以外の生産量（日均量）



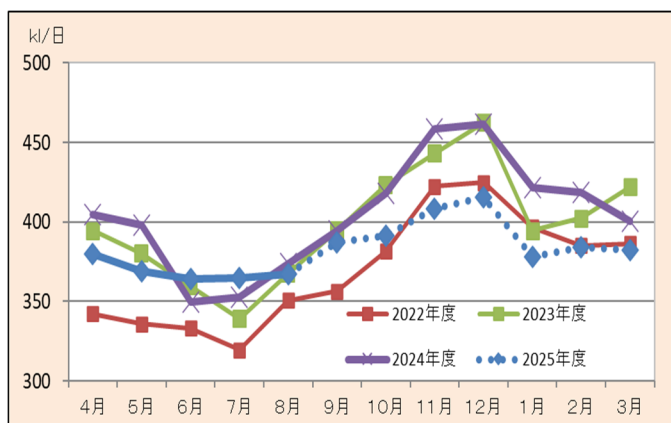
グラフ 3－5：業務用の生産量（日均量）



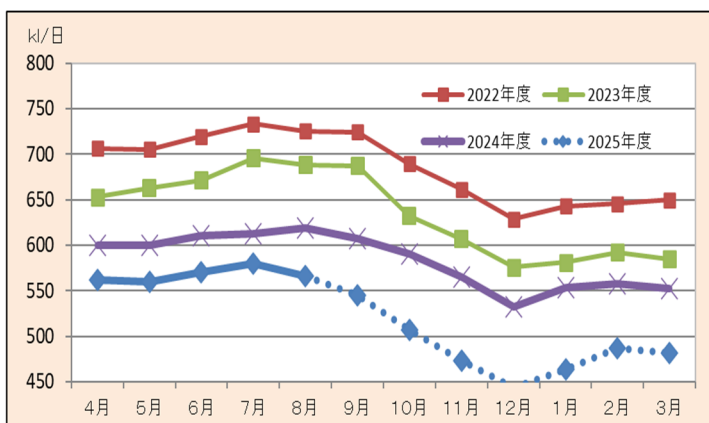
グラフ 3－6：業務用以外の生産量（日均量）



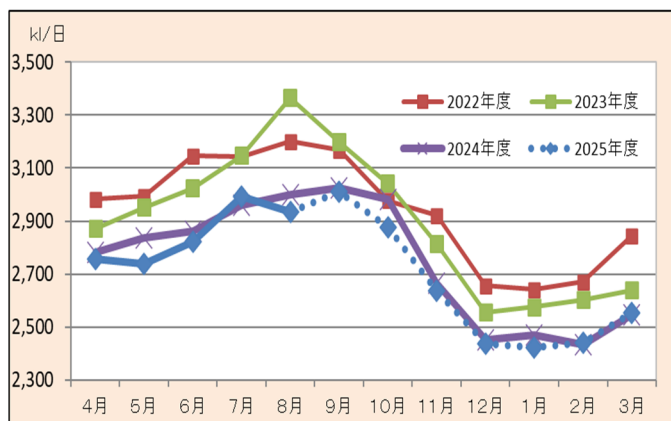
グラフ 3－7：加工乳の生産量（日均量）



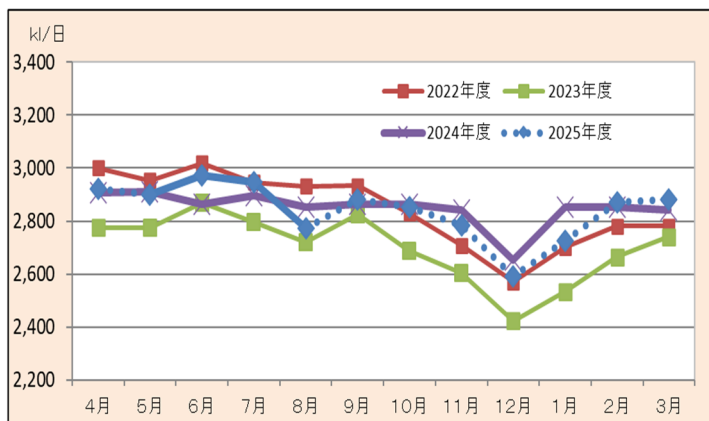
グラフ 3－8：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ 3－9：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ 3－10：はっ酵乳の生産量（日均量）



4. 用途別処理量の動向

表4-1：2024年度の生乳供給量及び用途別処理量（網掛け：実績） (千トン)

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向 (認定ベース)		脱脂粉乳・バター等向		チーズ向		生クリーム等向	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
4月	635	101.1%	4	100.5%	631	101.1%	316	98.3%	315	104.1%	176	107.8%	38	97.6%	102	100.6%
5月	656	101.0%	4	105.2%	651	101.0%	335	98.5%	317	103.7%	175	105.4%	39	102.5%	102	101.3%
6月	616	99.5%	4	94.0%	612	99.5%	337	99.8%	276	99.2%	136	94.6%	39	109.7%	101	102.1%
7月	606	98.3%	4	107.7%	602	98.2%	331	97.4%	272	99.3%	131	98.1%	35	92.5%	106	103.3%
8月	592	100.3%	4	99.8%	588	100.3%	320	99.6%	268	101.2%	131	102.1%	35	100.7%	102	100.4%
9月	579	101.0%	4	96.8%	576	101.1%	335	98.6%	240	104.7%	111	120.4%	28	87.4%	101	96.2%
10月	606	101.4%	4	109.2%	602	101.3%	344	100.5%	258	102.5%	123	109.7%	33	95.6%	103	97.0%
11月	589	101.8%	4	96.4%	585	101.8%	322	101.3%	263	102.4%	124	106.0%	33	100.5%	105	99.1%
12月	616	101.2%	3	91.3%	613	101.2%	308	100.2%	305	102.3%	166	102.4%	37	103.5%	102	101.8%
1月	632	101.9%	4	80.2%	629	102.0%	316	100.6%	312	103.5%	174	104.9%	37	99.2%	102	102.6%
2月	583	98.2%	4	85.6%	580	98.3%	298	97.5%	282	99.1%	154	100.2%	34	99.2%	95	97.4%
3月	661	102.3%	4	90.8%	658	102.4%	319	102.0%	339	102.8%	196	104.6%	38	100.0%	105	100.4%
第1四半期	1,907	100.5%	12	99.9%	1,895	100.6%	987	98.9%	908	102.4%	487	102.9%	116	103.1%	305	101.3%
第2四半期	1,778	99.9%	12	101.3%	1,766	99.8%	986	98.5%	780	101.6%	373	105.3%	98	93.7%	309	99.9%
第3四半期	1,811	101.4%	11	98.8%	1,800	101.5%	974	100.7%	826	102.4%	414	105.6%	102	99.9%	310	99.2%
第4四半期	1,877	100.9%	11	85.3%	1,866	101.0%	933	100.1%	933	101.9%	523	103.4%	108	99.5%	302	100.2%
上期	3,685	100.2%	24	100.6%	3,661	100.2%	1,973	98.7%	1,688	102.0%	860	103.9%	214	98.5%	614	100.6%
下期	3,688	101.1%	22	91.7%	3,667	101.2%	1,907	100.4%	1,759	102.1%	937	104.3%	211	99.7%	612	99.7%
年度計	7,373	100.7%	45	96.1%	7,328	100.7%	3,881	99.5%	3,447	102.1%	1,797	104.1%	424	99.1%	1,226	100.2%

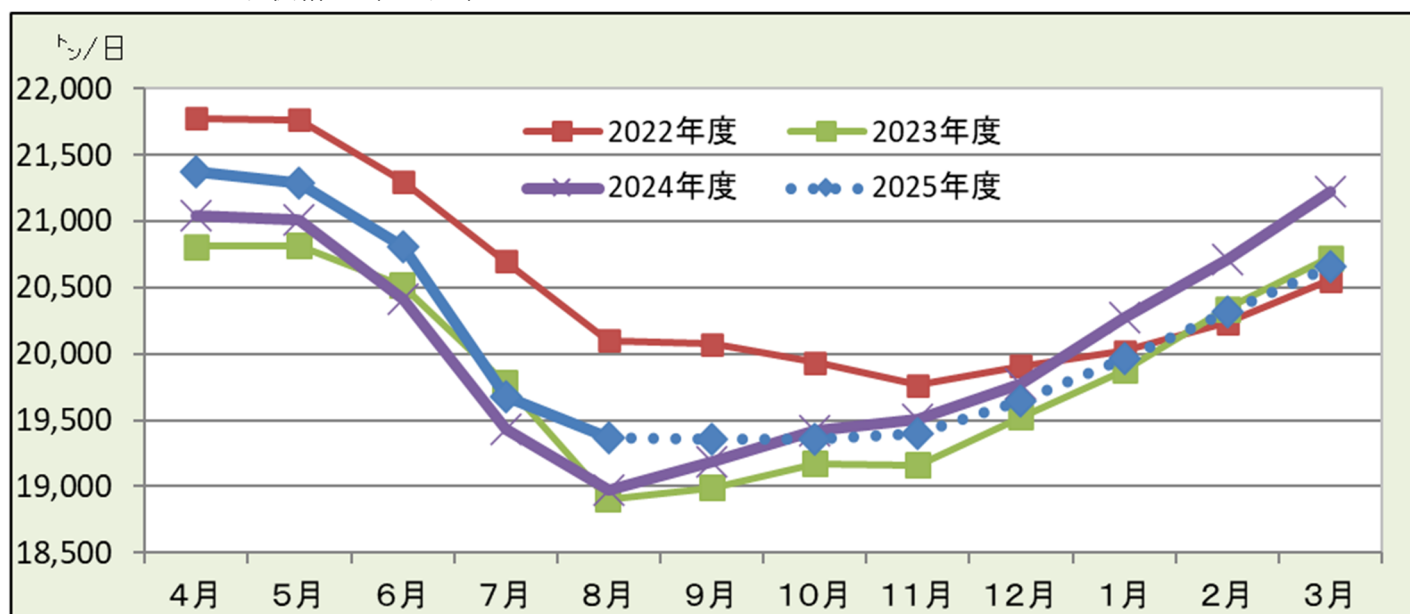
表4-2：2025年度の生乳供給量及び用途別処理量（見通し） (千トン)

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		飲用等向		乳製品向 (認定ベース)		脱脂粉乳・バター等向		チーズ向		生クリーム等向	
	前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比	
4月	645	101.5%	4	90.9%	641	101.6%	317	100.3%	324	102.8%	184	105.0%	39	103.4%	101	98.9%
5月	663	101.2%	4	85.4%	660	101.3%	334	99.7%	326	103.0%	180	103.0%	40	102.0%	106	103.4%
6月	628	101.9%	4	92.9%	624	101.9%	333	99.0%	291	105.5%	154	113.0%	38	97.1%	99	98.6%
7月	614	101.2%	4	92.8%	610	101.3%	337	101.8%	274	100.6%	137	104.1%	34	98.4%	103	97.0%
8月	604	102.0%	4	92.1%	600	102.1%	317	98.9%	284	106.0%	146	111.5%	34	97.6%	104	101.8%
9月	584	100.9%	4	100.8%	581	100.9%	331	98.8%	249	103.8%	114	103.4%	32	113.8%	103	101.4%
10月	604	99.6%	4	99.3%	600	99.6%	336	97.7%	264	102.2%	127	103.0%	34	103.2%	103	100.8%
11月	586	99.4%	4	98.9%	582	99.4%	314	97.3%	268	102.0%	133	106.8%	32	96.0%	104	98.3%
12月	612	99.4%	3	99.0%	609	99.4%	302	98.1%	307	100.6%	171	103.1%	35	94.8%	101	98.6%
1月	622	98.4%	3	98.0%	619	98.5%	308	97.5%	310	99.4%	176	101.6%	36	98.2%	98	96.1%
2月	572	98.1%	3	97.6%	569	98.1%	293	98.4%	276	97.8%	151	98.2%	33	99.1%	92	96.7%
3月	644	97.4%	3	96.9%	641	97.4%	316	99.0%	324	95.8%	184	93.9%	38	98.5%	103	98.3%
第1四半期	1,936	101.5%	11	89.6%	1,925	101.6%	984	99.7%	942	103.7%	519	106.5%	117	100.8%	306	100.3%
第2四半期	1,802	101.4%	11	95.1%	1,791	101.4%	985	99.8%	807	103.4%	397	106.5%	100	102.6%	309	100.0%
第3四半期	1,802	99.5%	11	99.1%	1,791	99.5%	952	97.7%	839	101.5%	431	104.2%	100	97.8%	308	99.2%
第4四半期	1,839	98.0%	10	97.5%	1,828	98.0%	918	98.3%	911	97.6%	511	97.7%	107	98.6%	293	97.0%
上期	3,738	101.5%	22	92.3%	3,717	101.5%	1,968	99.7%	1,748	103.6%	916	106.5%	217	101.6%	615	100.2%
下期	3,640	98.7%	21	98.3%	3,619	98.7%	1,869	98.0%	1,750	99.5%	942	100.6%	207	98.2%	600	98.1%
年度計	7,379	100.1%	43	95.2%	7,336	100.1%	3,838	98.9%	3,498	101.5%	1,858	103.4%	424	99.9%	1,215	99.2%

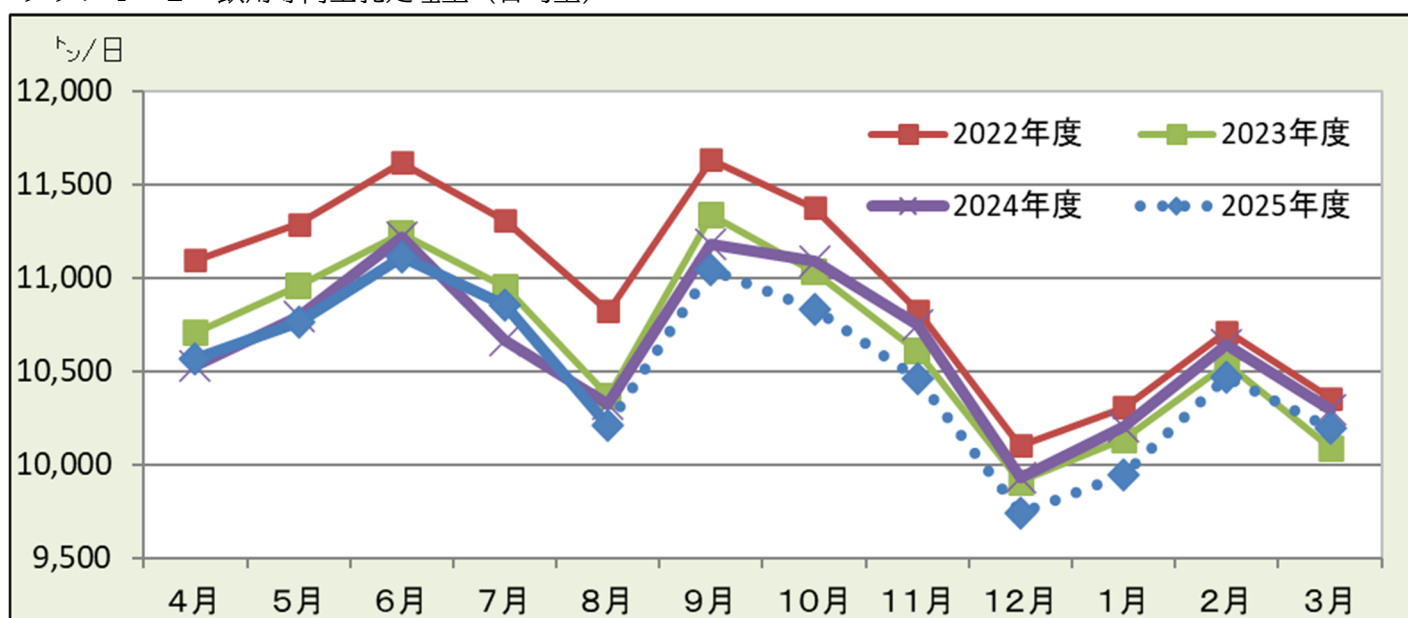
【2025年度の用途別処理量の見通し】 生乳供給量は7,379千トン・前年比100.1%、飲用等向処理量は3,838千トン・同98.9%、乳製品向処理量は3,498千トン・同101.5%と見込んだ。乳製品向のうち、チーズ向は424千トン・同99.9%、生クリーム等向は1,215トン・同99.2%、脱脂粉乳・バター等向は、1,858千トン・同103.4%となる見通し。

【前回見通し(8/1)公表】 生乳供給量は7,309千トン・前年比99.7%、飲用等向処理量は3,826千トン・同98.6%、乳製品向処理量は3,483千トン・同101.0%と見込んだ。乳製品向のうち、チーズ向は422千トン・同99.5%、生クリーム等向は1,224トン・同99.9%、脱脂粉乳・バター等向は、1,836千トン・同102.2%。

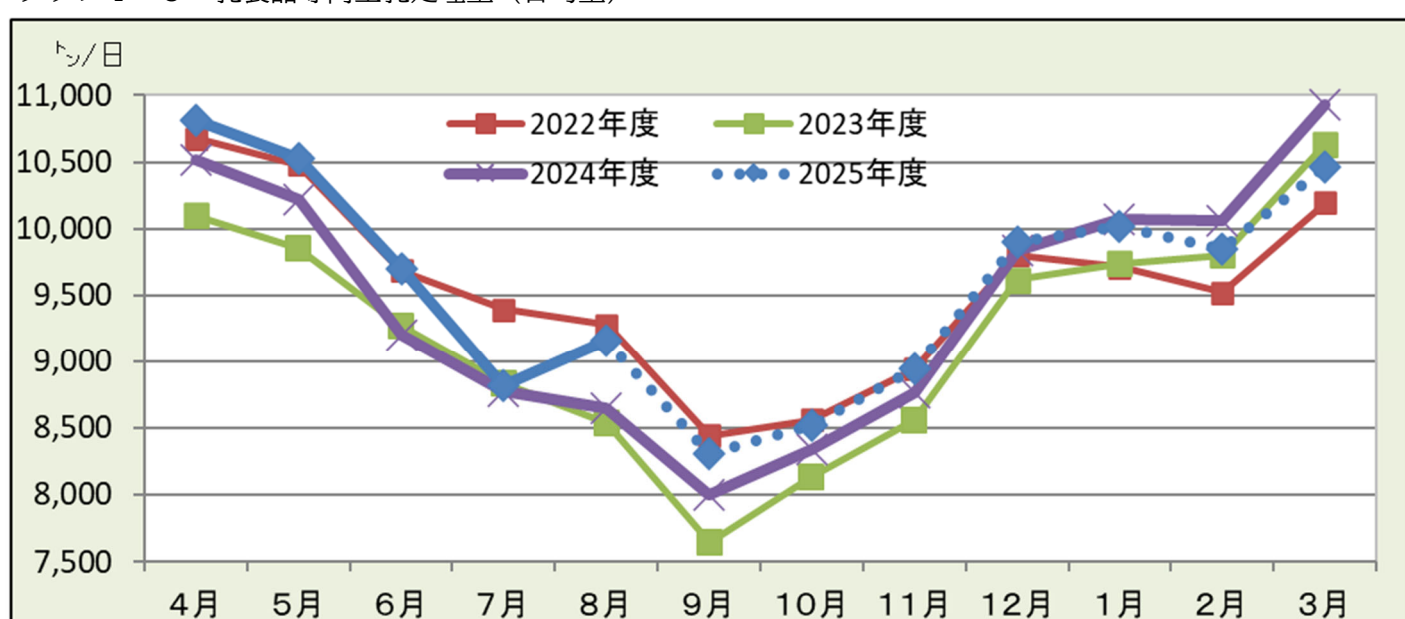
グラフ４－１：生乳供給量（日均量）



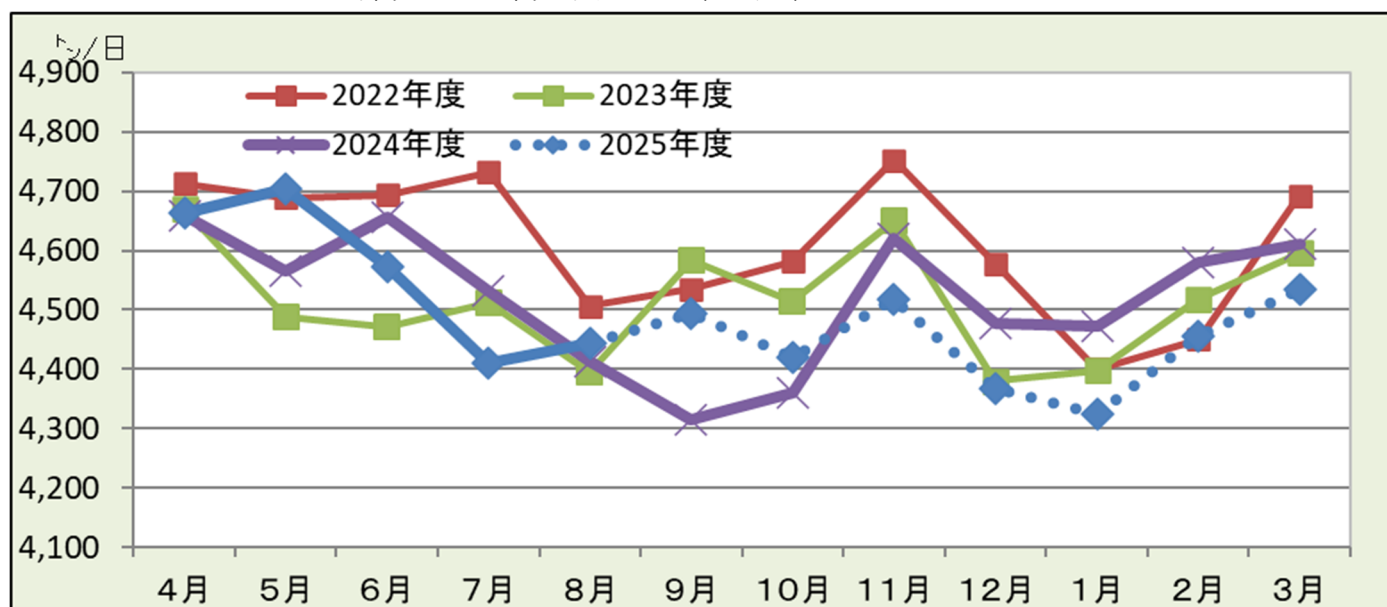
グラフ４－２：飲用等向生乳処理量（日均量）



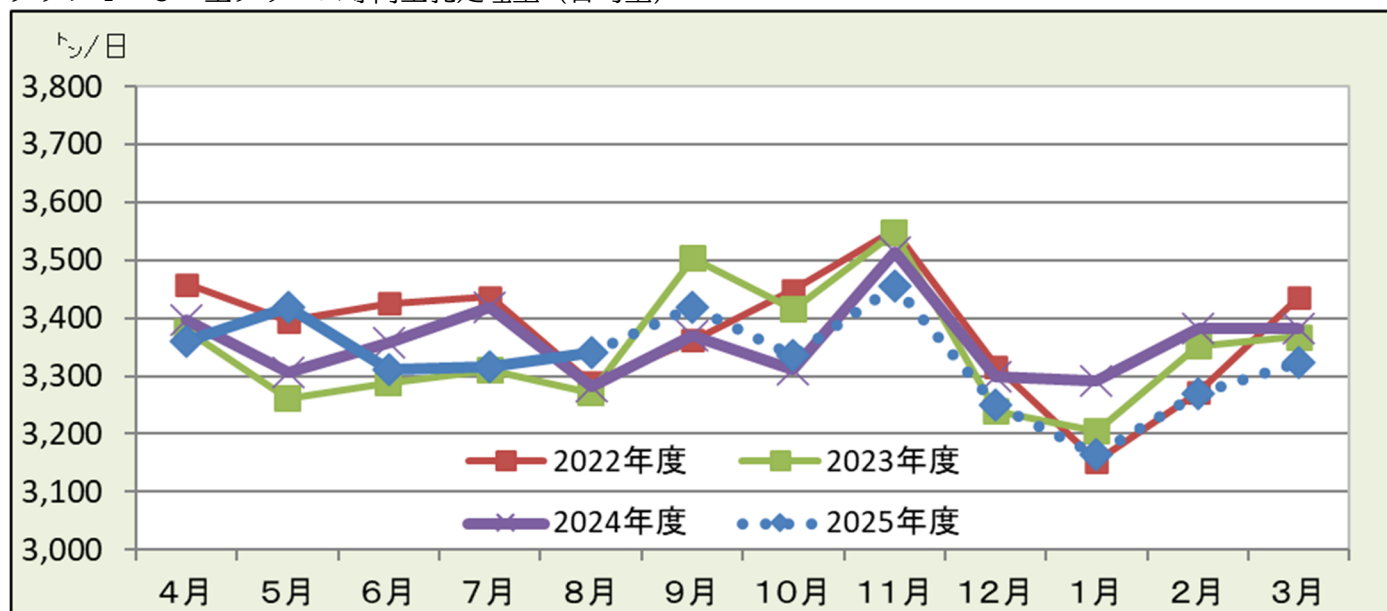
グラフ４－３：乳製品等向生乳処理量（日均量）



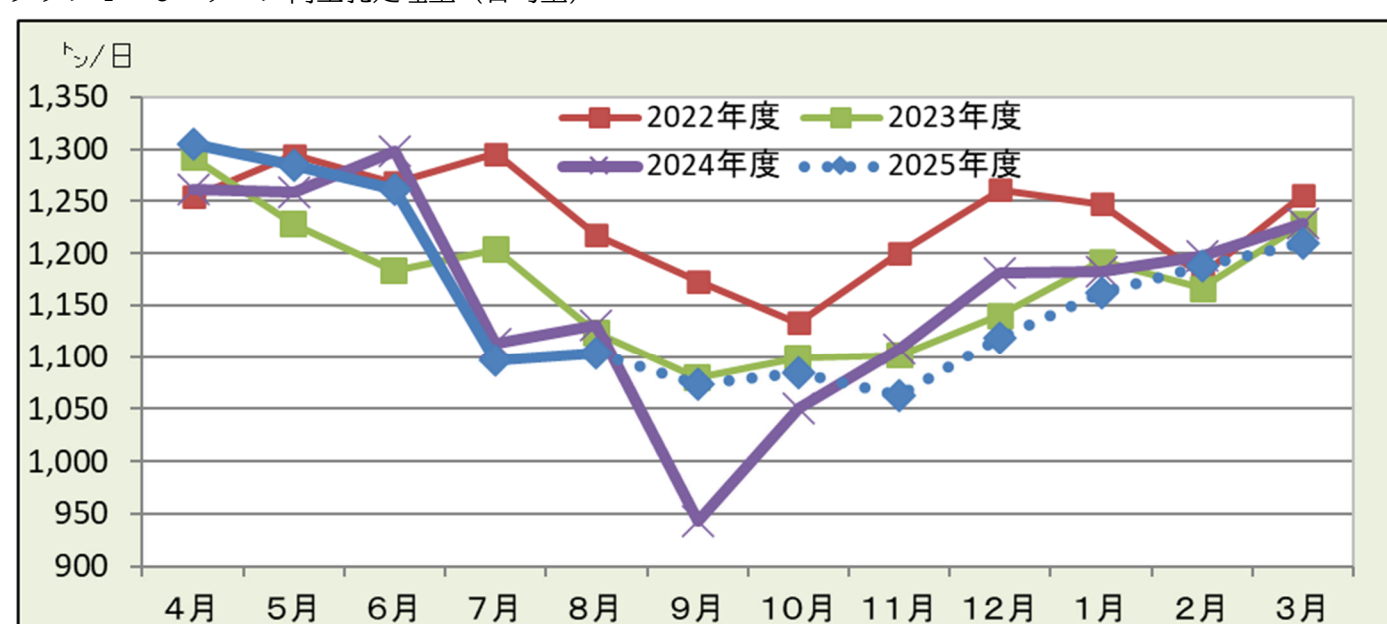
グラフ４－４：生クリーム等向・チーズ向生乳処理量（日均量）



グラフ４－５：生クリーム等向生乳処理量（日均量）



グラフ４－６：チーズ向生乳処理量（日均量）



5. 乳製品需給の動向

表5-1：2024年度の脱脂粉乳の需給（網掛け：実績）

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量				在庫対策を 除いた場合の 月数	推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			C	B+C-D	A+B+C-D	前年比		月数	D
第 1 四半期	47.7	74.0%	41.5	104.5%	0.2	6.5	54.2	78.5%	4.0	5.2	35.2	99.6%	
第 2 四半期	54.2	78.5%	31.4	107.3%	0.1	-5.2	49.1	83.6%	3.6	4.8	36.6	92.1%	
第 3 四半期	49.1	83.6%	36.5	105.2%	0.0	1.4	50.5	100.7%	4.0	4.9	35.1	81.2%	
第 4 四半期	50.5	100.7%	45.1	103.3%	0.3	1.5	52.0	109.0%	4.1	4.9	43.8	94.4%	
上期	47.7	74.0%	72.9	105.7%	0.3	1.3	49.1	83.6%	3.6	4.8	71.8	95.6%	
下期	49.1	83.6%	81.6	104.1%	0.3	2.9	52.0	109.0%	4.1	4.9	78.9	88.0%	
年度計	47.7	74.0%	154.4	104.9%	0.6	4.3	52.0	109.0%	4.1	4.9	150.7	91.5%	

※月数は、当該期末在庫数量÷直近1年間の出回り数量実績の1か月平均値で計算

126.8 102.7%
在庫対策を除いた場合の出回り量
(対策無し通常需要)

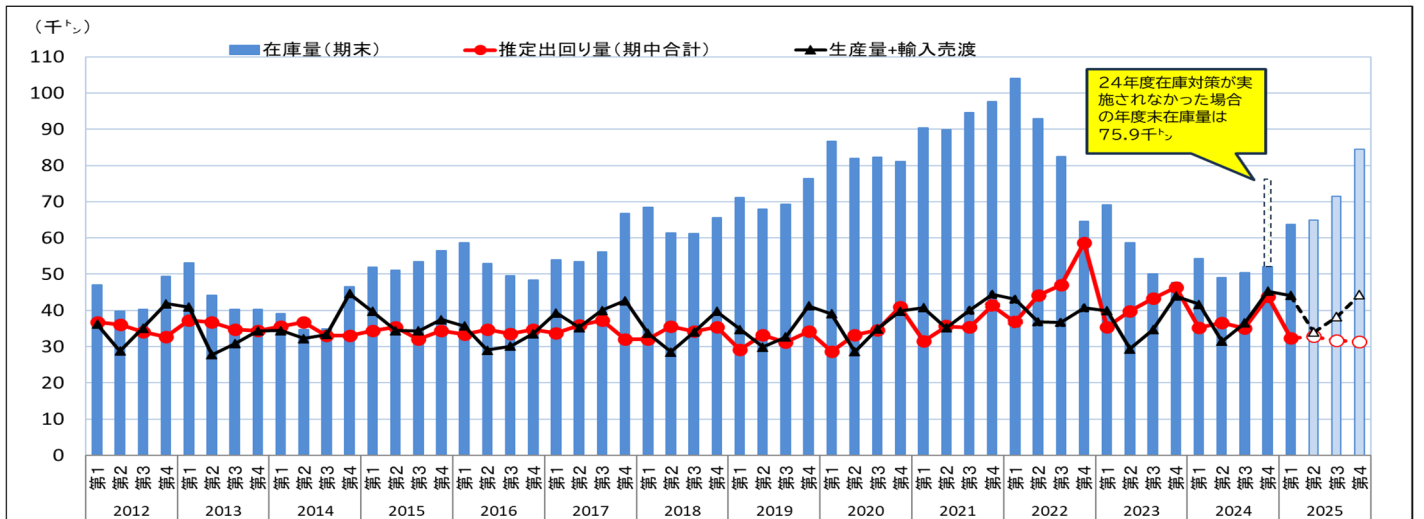
表5-2：2025年度の脱脂粉乳の需給（見通し）

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量				在庫対策を 除いた場合の 月数	推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比			C	B+C-D	A+B+C-D	前年比		月数	D
第1 四半期	52.0	109.0%	44.1	106.3%	0.0	11.8	63.8	117.6%	5.2	6.0	32.3	91.9%	
第2 四半期	63.8	117.6%	33.6	107.2%	0.3	1.2	65.0	132.3%	5.4	6.0	32.8	89.5%	
第3 四半期	65.0	132.3%	38.0	104.2%	0.2	6.6	71.6	141.7%	6.1	6.6	31.7	90.2%	
第4 四半期	71.6	141.7%	44.1	97.7%	0.1	12.9	84.4	162.3%	7.9	7.9	31.3	71.5%	
上期	52.0	109.0%	77.7	106.7%	0.3	12.9	65.0	132.3%	5.4	6.0	65.1	90.7%	
下期	65.0	132.3%	82.1	100.6%	0.4	19.5	84.4	162.3%	7.9	7.9	63.0	79.8%	
年度計	52.0	109.0%	159.8	103.5%	0.7	32.4	84.4	162.3%	7.9	7.9	128.1	85.0%	

※月数は、当該期末在庫数量÷直近1年間の出回り数量実績の1か月平均値で計算

101.0%
在庫対策を除いた24年度出回り量と
の比較

グラフ5：脱脂粉乳の生産量・輸入売渡・推定出回り量・在庫量（四半期毎）



【2025年度の脱脂粉乳需給の見通し】生産量159.8千トン・前年比103.5%、推定出回り量128.1千トン・同85.0%（2024年度の在庫対策数量を除いた値との比較は101.0%）となる見通し。輸入売渡し数量を0.7千トンと仮定すると、単年度ギャップは32.4千トンで、年度末在庫量は84.4千トン・同162.3%を見込む。

※：輸入売渡し数量は2025年度輸入枠(0.75千トン)から推定。TPP11、日EU・EPAによる民間貿易については考慮していない。

【前回見通し(8/1)公表】生産量157.7千トン・前年比102.1%、推定出回り量129.1千トン・同85.6%（2024年度の在庫対策数量を除いた値との比較は101.8%）。年度末在庫量は81.3千トン・同156.4%。

表5'-1：2024年度のバターの需給（網掛け：実績）

(千トン)

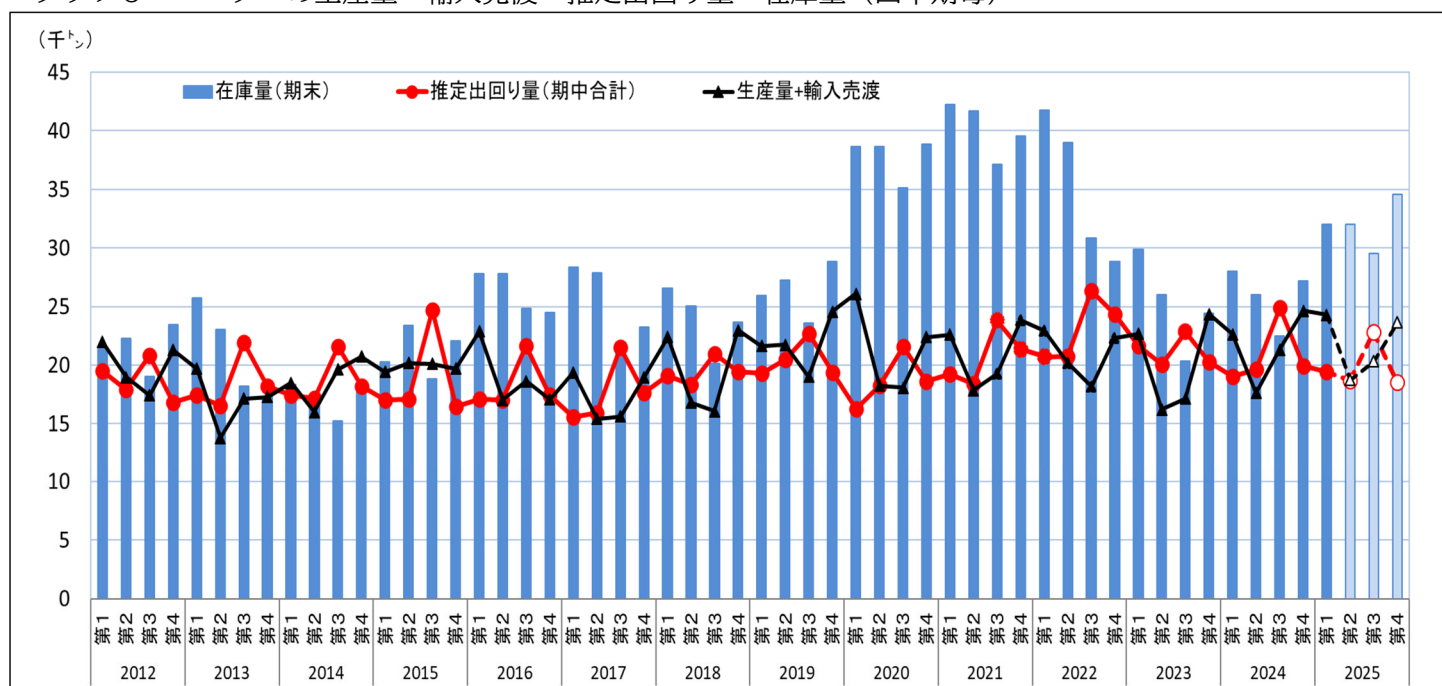
	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比	C	B+C-D	A+B+C-D	前年比	月数	D	前年比
第1四半期	24.4	84.7%	19.7	103.7%	2.9	3.6	28.0	93.8%	4.1	19.0	88.0%
第2四半期	28.0	93.8%	14.4	106.2%	3.3	-2.0	26.0	100.1%	3.8	19.6	97.7%
第3四半期	26.0	100.1%	16.6	111.5%	4.7	-3.5	22.5	110.7%	3.2	24.9	108.9%
第4四半期	22.5	110.7%	22.0	104.5%	2.7	4.7	27.2	111.2%	3.9	20.0	98.5%
上期	24.4	84.7%	34.1	104.7%	6.2	1.6	26.0	100.1%	3.8	38.7	92.7%
下期	26.0	100.1%	38.6	107.4%	7.4	1.1	27.2	111.2%	3.9	44.8	104.0%
年度計	24.4	84.7%	72.7	106.2%	13.6	2.7	27.2	111.2%	3.9	83.5	98.4%

表5'-2：2025年度のバターの需給（見通し）

(千トン)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し	過不足	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比	C	B+C-D	A+B+C-D	前年比	月数	D	前年比
第1四半期	27.2	111.2%	21.5	109.0%	2.8	4.8	32.0	114.2%	4.6	19.4	102.1%
第2四半期	32.0	114.2%	15.6	108.2%	3.2	0.0	32.0	123.1%	4.6	18.7	95.1%
第3四半期	32.0	123.1%	17.3	104.2%	3.0	-2.5	29.5	131.3%	4.4	22.8	91.7%
第4四半期	29.5	131.3%	21.5	97.7%	2.1	5.1	34.6	127.4%	5.2	18.5	92.9%
上期	27.2	111.2%	37.1	108.7%	5.9	4.9	32.0	123.1%	4.6	38.1	98.6%
下期	32.0	123.1%	38.8	100.5%	5.1	2.6	34.6	127.4%	5.2	41.3	92.2%
年度計	27.2	111.2%	75.8	104.4%	11.1	7.4	34.6	127.4%	5.2	79.5	95.1%

グラフ5'：バターの生産量・輸入売渡・推定出回り量・在庫量（四半期毎）



【2025年度のバター需給の見通し】 生産量 75.8 千トン・前年比 104.4%、推定出回り量 79.5 千トン・同 95.1% となる見通し。輸入売渡しを 11.1 千トンと仮定すると、単年度ギャップは 7.4 千トン、年度末在庫量 34.6 千トン・同 127.4%を見込む。

※輸入売渡数量は 2024 年度および 2025 年度の輸入枠から推定した。TPP11、日 EU・EPA による民間貿易については、加味していない。

【前回見通し(8/1)公表】 生産量 74.7 千トン・前年比 102.8%、推定出回り量 79.5 千トン・同 95.1%、年度末在庫量 32.8 千トン・同120.9%。

表6－1：2024年度の都府県の需給（網掛け：実績）

（千トン）

	生乳供給量		飲用等向 処理量		生クリーム等向・ チーズ向		A-B-C	移入量 (道外移出量)D		脱脂粉乳・ バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比			前年比		前年比
4月	278	100.1%	270	98.2%	5	95.7%	2	33	104.9%	34	125.8%
5月	282	100.5%	288	98.6%	5	94.9%	-11	38	100.1%	27	128.0%
6月	262	100.3%	290	100.1%	5	93.0%	-32	45	97.7%	13	97.6%
7月	249	97.0%	283	97.9%	5	96.4%	-39	51	99.3%	12	86.3%
8月	238	97.0%	273	99.6%	5	99.0%	-39	52	107.4%	13	82.8%
9月	233	97.6%	286	98.6%	4	94.0%	-57	63	104.2%	6	125.5%
10月	250	98.5%	295	100.4%	5	86.5%	-49	57	107.0%	8	91.4%
11月	246	99.7%	275	101.0%	5	97.1%	-34	44	109.0%	10	102.6%
12月	258	98.9%	264	100.1%	6	97.6%	-12	38	108.5%	27	99.7%
1月	265	99.4%	271	100.2%	5	102.6%	-11	39	108.8%	28	103.7%
2月	245	95.6%	255	97.1%	5	100.5%	-14	35	105.6%	21	91.3%
3月	281	99.6%	270	101.2%	6	100.3%	5	34	116.0%	39	100.9%
第1四半期	822	100.3%	849	99.0%	15	94.6%	-42	116	100.4%	75	120.5%
第2四半期	720	97.2%	842	98.7%	14	96.5%	-136	167	103.6%	31	90.0%
第3四半期	754	99.0%	834	100.5%	15	93.9%	-95	140	108.0%	44	98.8%
第4四半期	791	98.3%	796	99.5%	15	101.1%	-20	109	109.9%	88	99.3%
上期	1,542	98.8%	1,691	98.8%	29	95.5%	-178	283	102.3%	105	109.7%
下期	1,545	98.6%	1,629	100.0%	31	97.3%	-115	248	108.8%	133	99.1%
年度計	3,087	98.7%	3,321	99.4%	60	96.4%	-293	531	105.2%	238	103.5%

表6－2：2025年度の都府県の需給（見通し）

（千トン）

	生乳供給量		飲用等向 処理量		生クリーム等向・ チーズ向		A-B-C	移入量 (道外移出量)D		脱脂粉乳・ バター等向	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比			前年比		前年比
4月	277	99.8%	272	100.6%	5	98.0%	-0	36	109.0%	35	102.6%
5月	282	100.0%	288	99.8%	5	101.5%	-11	40	104.6%	29	108.3%
6月	260	99.3%	287	98.8%	5	98.9%	-31	46	102.0%	16	120.5%
7月	249	100.0%	286	100.9%	5	96.6%	-42	52	101.7%	11	88.6%
8月	240	101.1%	268	98.5%	5	99.8%	-33	50	96.5%	18	138.5%
9月	235	100.5%	283	98.6%	4	100.0%	-52	63	100.1%	11	187.6%
10月	249	99.5%	288	97.7%	5	100.0%	-44	55	96.3%	11	143.3%
11月	245	99.3%	267	97.1%	5	100.0%	-28	41	93.9%	14	138.0%
12月	256	99.2%	258	97.8%	6	100.0%	-8	38	99.7%	31	114.2%
1月	259	97.8%	263	97.2%	5	100.0%	-9	39	99.6%	30	106.5%
2月	239	97.7%	250	98.0%	5	100.0%	-15	35	99.9%	21	97.3%
3月	272	97.0%	267	99.1%	6	100.0%	-1	35	104.5%	34	88.5%
第1四半期	820	99.7%	846	99.7%	15	99.4%	-41	122	104.8%	81	107.8%
第2四半期	724	100.5%	837	99.3%	14	98.7%	-126	166	99.5%	39	128.1%
第3四半期	749	99.4%	813	97.5%	15	100.0%	-79	135	96.4%	55	124.5%
第4四半期	771	97.5%	781	98.1%	15	100.0%	-25	110	101.3%	85	96.3%
上期	1,544	100.1%	1,683	99.5%	29	99.1%	-168	288	101.7%	120	113.7%
下期	1,520	98.4%	1,594	97.8%	31	100.0%	-104	245	98.5%	141	105.8%
年度計	3,064	99.2%	3,277	98.7%	59	99.6%	-272	532	100.2%	260	109.3%

【2025年度都府県の生乳需給の見通し】生乳供給量は3,064千トン・前年比99.2%、飲用等向処理量は3,277千トン・同98.7%。北海道から都府県への移入量(道外移出量)は、532千トン・同100.2%となる見通し。
 【前回見通し(8/1)公表】生乳供給量は3,047千トン・前年比98.7%、飲用等向処理量は3,272千トン・同98.5%、道外移出量は、542千トン・同102.0%。

7. 需給動向を踏まえた当面の課題と対応について

2025 年度は、2 歳以上の乳用雌牛頭数が前年を下回る状況が続いているものの、濃厚飼料の給与量増加や暑熱対策の浸透、粗飼料の品質向上を背景に搾乳牛 1 頭あたりの乳量は増加傾向にあり、頭数の減少を個体乳量の増加が補う形で全国の生乳生産量は前年水準超えで推移している。一方、需要面では、8 月の乳価改定に伴い牛乳類の価格の引き上げが順次行われており、今後の消費減退が見込まれている。こうした中、年度末にかけて脱脂粉乳の在庫量は 8 万トンを上回る水準にまで増加することが見込まれる。

なお、今夏の需要期は、地域によっては暑熱や湿度の影響で生乳生産量が想定より減少し、供給に苦慮する場面が見られた。不需要期の需要確保に向けて、需要期の安定供給を実現し消費者の購買機会を逸しないためには、引き続き各地域の需給動向を共有しながら広域的な配乳調整に関係者間で協力することが肝要である。

(1) 需給緩和期の対応

年末年始など、学校給食用牛乳の供給が停止する時期には、生乳需給が一時的に大きく緩和する可能性がある。本年 3 月の脱脂粉乳・バター等向けの処理乳量は、コロナ禍で需給が大きく緩和した 2021 年度の水準を上回る中、生・処が協調して処理の最大化等に取り組むことで乗り越えることができた。しかしながら、工場やドライバーの人員確保に困難な状況が続く中、今年度は昨年度以上に厳しい加工向け処理の対応が求められる可能性がある。このため、後述(2)に記載の業界一体となった国産牛乳乳製品の需要拡大を強力に進めながら、乳製品工場の稼働率最大化や市乳工場におけるタンク貯乳量の最大化、生乳使用率の高い製品の販売促進などの対策を講じていくことが不可欠である。

(2) 国産牛乳乳製品の需要拡大に向けて

酪農乳業を再生産可能な産業とするため、J ミルクは、「牛乳でスマイルプロジェクト」のもと、2025 年度において①業界統一的にすべての活動で共通ロゴマークを使用②2025 年 11 月～2026 年 3 月の不需要期に活動時期を集中③全国の酪農乳業関係者による価値訴求やインバウンドを含むターゲット別の取り組みなどの業界内外での積極的な連携の 3 点をコンセプトに位置付け、国産牛乳乳製品の需要拡大に向け業界一体となった取り組みを推進する。また、プロジェクトに関わる酪農乳業関係者の取り組みについて情報を収集・集約し、消費者にわかりやすく発信するためのポータルサイトの構築を進めている。さらに、11 月には、東京・豊洲にて、「牛乳でスマイルプロジェクト」のもとでの新たな全国的な取り組みのキックオフとして、牛乳・ヨーグルトのさらなる魅力発見を消費者に発信するイベントを開催する予定である。

これらの取り組みやさまざまな機会を通じて、酪農乳業関係者それぞれの活動が相乗効果を生むよう連携を強化しながら、実需につながる効果的な施策を業界一体となって進めていくことが重要である。

(3) 生産基盤の強化・維持や生乳需給の安定化に向けて

本年 4 月に策定された新たな「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針（酪肉近）」では、生乳需給と経営の持続可能性を考慮した生産基盤の維持・強化を図る方針が明記された。このため、前述(2)に記載した需要拡大の取り組みを業界全体で着実に推進するとともに、離農戸数が高止まりしている状況を踏まえて、生産基盤の維持・強化に向けた施策も積極的に進めていく必要がある。

また、生産基盤の棄損を回避しつつ需給変動に迅速に対応するための保険的制度として J ミルクが 2025 年度から開始した「酪農乳業需給変動対策特別事業」について、現時点での脱脂粉乳在庫量の見通しを踏まえ、今後の需給動向を注視しながら関係者と協議の上で事業発動（乳製品在庫削減対策）の可否等を適切に判断していく必要がある。